

[経営測定研究室]A. 林業経営に関する研究 : 1. 利用材積表の調整方法に関する研究

柿原, 道喜
九州大学農学部附属演習林 : 助手

木梨, 謙吉
九州大学農学部附属演習林 : 教授

<https://doi.org/10.15017/1456255>

出版情報 : 演習林研究経過報告. 昭和41年度, pp. 63-63, 1967-07-10. 九州大学農学部附属演習林
バージョン :
権利関係 :

A. 林業経営に関する研究

1. 利用材積表の調整方法に関する研究

柿原道喜
木梨謙吉

林業経営において、伐出費、立木価格の計算のためには正確な利用材積の把握はきわめて重要であるにもかかわらず、利用材積表の研究は、わが国においては非常に少ない。そこで、利用材積表の合理的作製方法を明らかにして正しい利用材積を算定する基礎を作ることを目的とする。

利用材積表の調整方法としては、従来から行なわれている幹曲線式法、回帰法のほか、最近ではプロビット法、多項式結合方式などが提案されている。本研究は、各樹種について上記諸方法により利用材積表の調製を行ない、それらを比較検討してもつとも正しい利用材積表の調製方法を明らかにしようとするものであつて、本年度は、宮崎演習林の広葉樹を対象としてプロビット法による利用材積表の調製をこころみた。(資料編参照)。その結果、天然生広葉樹のように湾曲木、腐朽木があつたり、また、枝条からも丸太が採伐される場合には、プロビット法を用いることが非常に好適であることが認められた。(第22回日本林学会九州支部大会・第77回日本林学会大会で発表)

2. 肥培林業の経営に関する研究(要約)

宮崎安貞

本研究は、合理的な肥培林業経営へのアプローチを企てたものである。まず、スギ、ヒノキを材料として林木生長におよぼす林地肥培の影響を調べ、幼令期施肥の生産技術的諸特徴を明らかにした。また、相知型スギ肥培林は、独特の肥培施業法により統一かつ継続的に経営されているが、その林分構成諸因子について隣接した対照林と比較・検討した。つぎに、これらの実験および調査結果に基づいて、主として限界分析法、予算法によつて合理的肥培林業経営への接近を